

平成30年6月3日

南の風 272

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

263号から『強いチームをつくるためのリーダーシップのあり方』を書いてきました。

最後に、最近私が感じている『リーダー（コーチ）の度量』について述べてまとめにしたいと思います。

先日、ミニバスの指導者クリニックの折に以下のようなことがありました。

ミニバスにおける指導のプライオリティ（優先順位）についての話し合いの時のことです。

各チームのコーチが数人いたのですが、あるコーチ（A）が、「やっぱり1対1は、ドライブインで入って行き、レイアップシュートが基本だよな。」と話しました。すると、他のコーチ（B）が「何でもかんでもドライブしてレイアップに行くより、ストップしてシュートする（セットシュートやジャンプシュート）ことも同時に指導したほうがいい。」といいました。するとAコーチは、「最初から2つことは無理だ。身体に染み込ますように、しっかりドライブからのレイアップを指導するべきだ。」と強くいいます。そしてさらに続けて、「ミニバスの選手は基本を繰り返す方が分かり易いし上達も早い」と、畳み掛けます。さらにさらに、「私はこのやり方で長年やって成果も出ている。」と言います。

読者の皆さんはどう思われますか・・・

私は聞いていて、「Aコーチは余裕がないなあ」と感じました。それは、ひとつ反論されるとムキになってしまい、2倍、3倍くらいにして返そうとする様子が見られたからです。傍から見ると、Bコーチの意見に対して、「そういう考えもありますよね。でも最初は1つのことを徹底するがいいのではないですか」と流しておけばいいのに、反対されたことに反応してしまっているように感じました。

Aコーチは実績もあり、ミニバス界では優秀なコーチとして認知されているのです。ですから、自分と異なった考えを頭から否定するのではなく、ゆとりを持って対応するべきではないかと思いました。聞いていると何か、「俺の意見が正しい」「なんで反対するのか」と憤ってしまっているようでした。

こうしたことの最大のマイナスは、「指導のプライオリティの在り方」という議論が置き去りにされてしまう危険性があるのです。メンツに拘るあまり、すなわち自分の感情や反対されたらだちが先立ってしまい、肝心要の議論すべき内容の吟味がされなくなってしまうのです。

リーダー（コーチ）に度量がないと、「俺のやってきたことに反論するのか」ということだけで、自分の考えを正当化しようとしてしまうのです。そして、自分のメンツだとか、活券だとかに拘ってしまうことにもつながるのです。

よく日本人はディベートが下手だと言われます。それは討論の中で自分の考えを押し付けたり、他の意見を聞こうとしなかったりして、相手の考えを理論的に論破しようとする態度が希薄だからです。

我々コーチはともすると、自分が学んできたスキルや、成功したドリルに固執して「これが一番いい」と思い込むことが多々あるのではないのでしょうか。

コーチとして度量とは、他の考え（指導法やスキルの捉え方）に耳を傾け、違った意見を受け入れ、自分の現在のコーチングよりさらにレベルアップしようとする向上心だと、私は思います。